

北海道総合福祉研究センターニュース No.36

2022.10.1

巻頭言

「特殊詐欺の被害額は、そのまま『親の愛情』の大きさだと思う」

理事長 五十嵐教行

高齢者をターゲットにした特殊詐欺といえば、「オレオレ詐欺」だ。子どもや孫などの親族を装い「集金した金を落とした」「会社の金を横領してバレた」「交通事故を起こして訴えられた」などと偽り、現金を振り込ませる詐欺である。警察庁によれば、特殊詐欺の被害者は、70歳以上が5割以上、60歳以上では約8割を占めている。地域社会の中でつながりが希薄な一人暮らしの高齢者が狙われている。ところで、筆者はオレオレ詐欺のニュースを目にするたびに、被害者に対して「親の愛情」の深さを感じているのである。

「オレオレ詐欺」は、相手が息子になりきって電話してくるのだが、オレオレ詐欺に娘が登場してくるケースを筆者は知らない。きっと娘は、会社のお金を横領することもなければ、怪しげな事件に巻き込まれることがないと誰もが信じているのだろう。“娘”ではなく、“息子”というところにこの詐欺事件のカギがあると考えている。

さて、とかく男の子はおバカな生き物であると、世の母親はなかばうれしそうに嘆く。幼稚園のカバンからおびただしい数のミミズが出てきたとか、ビー玉を鼻の穴に突っ込んで取れなくなったとか、いつのものかわからない弁当箱がカバンから出てきたとかといったエピソードは事欠かない。筆者もおバカな男の子だったと思う。

おバカな生き物ゆえに、母親が注ぐ愛情は深く、そして純粋だ。自分が守ってやらねばという強い気持ちが醸成されていくのだろう。あれから息子は成長し、会社でもそれなりの地位に就いた。結婚をして家庭も築いた。そんな息子の姿に安堵しながらも、どこかおバカだった頃の姿が消えないではないか。母の中では息子はあの頃のままなのかもしれない。ある日電話が鳴った。電話の向こうで「オレだよ。オレ」とぶっきらぼうだから、思わず息子の名前を言ってしまう母。電話の向こうで涙声でしゃべっているから、せっぱ詰まっているとすぐにピンときた。これは一大事だ。会社にも嫁にも知られてはいけないのだ。よしわかった。心配するな、この母に任せておけ！と感情が高ぶってくるのだ。“この私が助けなきゃ”という気持ちが体中を駆けめぐるのだ。あり得ない話であるのに、信じ切ってしまうのだ。だって、息子はあの息子なんだから。息子はいくつになっても、おバカな生き物なんだと思うがゆえに疑うことができない。むしろ、窮地に立って困ってしまった時に、この母を頼ってきたことに“よしよし”と思ってしまうのだ。

こんな事件があった。女性客(78)が1000万円の定期預金の解約に来た。窓口の女性職員から用途を聞かれても、女性は「言えない」と最初は答えたものの、「息子が会社のお金をなくしたから」と説明。「詐欺ではないか」と諭されたが、女性は「詐欺でもいいから解約してほしい」と食い下がった。そのやり取りを聞いていた別の女性職員が機転を利かせて、データを調べて女性の家族に電話。家族が女性を説得した、というものである。

解約をさせまいとした2人の女性職員の関わりは、まさにファインプレーだと思う。そして筆者は思うのである。「詐欺でもいいから」と訴えて、必死で解約をしようとするこの女性は息子を助きたい一心だったのだということ。それは、母の一途な愛情の表れだ。

だからこそ、この詐欺の犯人に腹が立つ。卑劣なやり口を絶対許せないのである。

* 筆者は、特殊詐欺防止のための研修を実施してきました。さらにパワーアップした研修を企画中です。

「被災者から聞いた災害時に役に立ったグッズ①」

各地域で被災した被災者へのアンケートの結果から、筆者がまとめました。

- 下着などの衣類・・・綿100%などの乾きにくいモノではなく、速乾性の高いモノ
- 歯ブラシ・・・意外と持ち出し袋に入っていない。起床時と就寝時、食事後に歯磨きをしている人は必須
- コンタクトレンズの予備と眼鏡・・・今装着しているコンタクトレンズの使用日数が過ぎても外せないという状況を回避する
- 現金・小銭・・・停電になると電子マネーとクレジットカードは使えない。
- カイロ・・・寒い時期には必須
- 冷感のジェルシート・・・暑い時期には必須
- モバイルバッテリー・・・できるだけ大容量のもの
- お菓子・・・気持ちが軽くなるし、子どもがいれば必須
- 救急セット・・・逃げ出す時や後かたづけなどで擦り傷が増えるので、絆創膏は必須。
特に服用中の薬がある人は、その薬の予備と「お薬情報」は必須。

★こんな意見がありました

「持ち歩く鞆に、メガネかコンタクトの予備を入れておく事にした。万一の時の視界確保のため。震災の程度によるが、衛生用品やメガネ類の予備を通勤先にも用意したり、鞆に入れられるものは入れておいた方が良いと思う」

「外国人の介護スタッフの語り場」

月1回のzoomでの『語り場』は、昨年8月より2名（中標津町在住のアメリカ人男性と幹事の本間）で始まりました。現在ではそのアメリカ人男性の奥さま（同じくアメリカ人）も参加するなど6名に増えて、交流しています。

開催時間は18:30から20:00までの1時間半です。いつも話が途切れず、時間が経つのも忘れてしまい、笑いと懐かしさと学ぶことの多いひと時を過ごさせてもらい、次回が待ち遠しい雰囲気で開催しています。当初は日本文化や認知症、傾聴など硬い話題でしたが、参加人数が増えるにしたがって、日常生活や食事、マナーなど身近な話題へと変化していき、現在は映画や映画俳優の話題で大いに盛り上がっています。

使う言語は主に英語ですが、日本語も随時交え、解らないところはその都度質問して、英語の堪能な日本人がその英語を説明してくれるので、話題にはいつもついていくことができます。だから安心して参加いただけると確信します。

目標は色々な国の方々が自由に参加できて、色々な言語が飛び交い、“地球はひとつ”を合言葉に交流できる場になればと考えています。興味がある方には、ぜひご参加下さいますようご招待いたします。どうぞ宜しくお願いします！（本間）

【古本屋で巡り会った本の書評】 古本屋巡りの趣味が高じてつくったコーナーです……

著書名	『子どもはみんな問題児。』
著者名	中川李枝子
出版社	新潮社、発行年／2015.3.30、定価1000円（税別）

本書の著者は、『ぐりとぐら』（累計発行部数2630万部、10カ国以上で翻訳）の著者でもある。本書は、17年間の保母として子どもたちと関わったことで知り得た子どもたちの姿を描いている本で、子育て中の親へ向けたメッセージである。本書の帯には、『焦らないで、悩まないで、だいじょうぶ。子どもは 子どもらしいのが いちばんよ』と書かれているが、子育てが終わった人も子育ての経験がない人も、子どもに感心を持っている人なら十分に読み応えのある一冊であると言える。本書は全部で45のエッセイから成り立っており、それぞれ一話完結である。自分の関心の向くままにタイトルを探して読み進めるのもよいだろう。

その中でも筆者の目を引いたタイトルがあるので、2つ紹介したい。

『子どもはたいがい臭いものです』というタイトル。そうか、子どもって、臭い生き物なのか……と思わずうなってしまった。それにしても、なんてストレートなタイトルだろう。ただ、『たいがい』と言うあたりに、著者の子どもを見る目の優しさを感じてしまう。

著者によると、子どもは涙あり、鼻水あり、よだれあり、そして鼻くそもありとのことである。しかも何にでもさわりまくるから、常に手はベタベタしているし、ねとねともしているとのことだ。幼児との関わりを経験している人ならわかるだろう。彼らがまとった汚れはすさまじいことに。そんな子どもを抱きかかえることに躊躇する大人がいる。筆者も子どもを抱きかかえた時に、その子が自分の顔を筆者の顔にペチャーとくっつけてきたことがあった。一瞬にして筆者の頬はよだれまみれになり、その子の親がたいそう申し訳なさそうにウェットティッシュを渡してくれた。今となっては良い思い出の一つだ。

著者は、その時は子どもの顔を拭けばいいじゃないかと言う。その通りだと思う。著者は、お湯で絞った温かいタオルで、口の周りやほっぺたをしょっちゅうふいてやると、子どもはうっとり気持ちよさそうにしている、みるみる汚れが取れていくとし、プールに入れば、あっという間にどの子もピカピカになるんだと説明する。うーん、ごもっとも。

『「お母さんのお腹には切った跡がある」って、それが自慢なのよ』というタイトル。子どもの「お母さん自慢」には限りがないとのこと。「わたし、帝王切開で生まれたの」と自慢した子がいた。それを聞いた子が「うちのママは盲腸切ってる」と自慢する。その中で、盲腸も切っているし胆石も取っている、その上帝王切開したお母さんがいて、その子の自慢には誰も勝てなかったという。著者は、その子はお母さんとお風呂に入るたびに3つの傷を眺めていたのだろう、触って感心もしていたのだろうと推察する。そんな子が産婦人科の医師になったとのことで、著者は、私たちは気がつかないうちに子どもに早期教育をしているのよ、と言う。うーん、確かに、そうかも。

読み終えて、自分はいったい、いつから子どもらしさを失ったのかと考えてしまった。

登別の報告－第2弾！

当センターの五十嵐理事長が、6月1日より当センターより登別市社会福祉協議会デイサービスセンターへ出向して4ヶ月が過ぎました。

最初の1ヶ月間で、超早期退職する人の気持ちがわかったような気がしました。

2ヶ月目が過ぎたあたりから職場の雰囲気慣れてきて、モノの置き場所などがわかるようになってきました。モノの置き場所がわかるようになると、業務中に補充しなければならないモノがあっても、そのことに対応できるようになります。それはかなり職員として動いているような気分になりました。

送迎車の運転にも取り組み出しましたが、土地勘のない町では、住宅地をぐるぐる回っていくと、自分がどこを走っているのか頭の中の地図が混乱し、同乗する介護スタッフからこまかくナビをしてもらっていました。それでもバッチリ覚えた家とその家の映像は浮かぶが、どこで曲がれば良いのか自信がない家などが混在し、私の頭の中は不安と心配でいっぱいでした。送迎についてはいまだ自信が持てない状況です。

3ヶ月目に入ると、些細なことを話して相談をしてくれる利用者、私の頭を気に入ったのかナデナデしてくれる利用者、私にちょっかいを出してくれる利用者が出てきました。介護の現場にいるんだなーと実感できるようになってきました。

【北海道総合福祉研究センター会員登録をお願いいたします】

北海道総合福祉研究センターは、特定非営利活動法人として活動しています。この法人は、社会的活動の内容に賛同してくださる皆様からの会費収入と事業収入により運営いたしております。

そこで、当センターの活動主旨にご賛同いただける皆様に、2022年度の正会員(個人)および賛助会員(企業・団体)のご登録をお願いいたします。

会員の皆様には、会報「北海道総合福祉研究センターニュース」や毎月発行する「おもしろハガキ」、当センター主催の各種研修・講座等のご案内をお送りいたします。理事長の五十嵐は、「傾聴」についての研究と実践活動も行っております。自分のからまった思いなど、誰かに話をしたらラクになるという体験を多くの方は持っています。ところが、いつの間にか、話のできる相手がいなくなっていることに気づき、孤独感を感じる時もあります。そういうとき、どうぞ理事長の五十嵐の傾聴を利用してください。どのような話でも、しっかり聴きます。一度お電話してみてください。お応えできると思います。

- | | | | |
|-------------------------------|--------------|-----------|---------------|
| (1) | 正会員 (個人) | 年会費 | 3,000円 |
| (2) | 賛助会員 (企業・団体) | 年会費 | 10,000円(1口) |
| ※ 年会費のお支払いは、次のいずれかにお振り込みください。 | | | |
| | 北海道銀行 | 白石支店 普通口座 | 0803475 |
| | 北洋銀行 | 北郷支店 普通口座 | 0665741 |
| | 郵便振替 | 口座番号 | 02770-1-60492 |

【編集後記】

先日、デイサービスセンターの入っている建物の掃除をしているお姉さんから「あんたは甘いモノは好きか」と問われ、キャンディを1つもらいました。すっごくうれしい気分になりました。(いが)

発行日	2022年10月1日
発行者	五十嵐教行
発行	特定非営利活動法人北海道総合福祉研究センター 〒003-0028札幌市白石区平和通2丁目南6-23-210 電話 090-8638-7264 FAX 011-595-7400 E-Mail hsfkc@minos.ocn.ne.jp ホームページ http://www.hsfkc.org